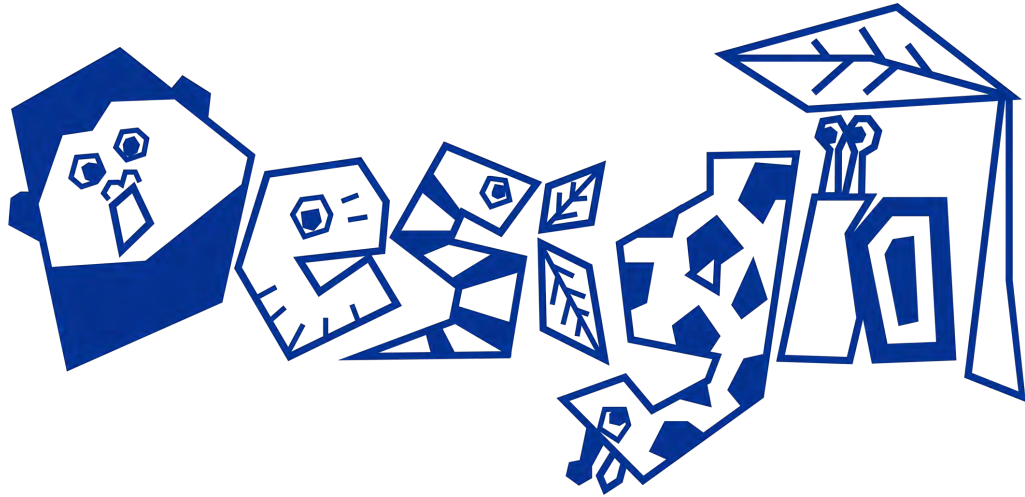


人間共生学部 共生デザイン学科 ゼミナール紹介



関東学院大学



共生デザイン学科の特色

人間共生学部 共生デザイン学科は2016年4月にスタートした学科で、社会や他者との共生、自然や環境との共生を目指す新しい概念のデザイン学科です。

デザイン文化やデザイン企画、コミュニティデザインなど、課題を発見し、これを解決するための方策を構想する知識を習得する分野と、映像デザイン、グラフィックデザイン、プロダクトデザイン、インテリアデザインなど、構想を具体的に表現する技術を習得する分野の両方を幅広く学べます。

各ゼミにおける指導は、育成する人材像を目指しています。また学科の特徴である「プロジェクト科目」は、少人数で課題に取り組む点でゼミと性格が近く、概略を以下に紹介いたします。

共生デザイン学科で育成する人材像

- デザインに関する知識と技術を持っている
 - 多様な生活文化・価値観を尊重し、自然と共生したライフスタイルの創造ができる
 - 生活の中で課題を発見し、解決するための方策を構想して、まとめて表現できる
- ※これらの能力を共生デザイン学科では「共生デザイン力」と呼んでいます

ユニークな授業：プロジェクト科目（3年次 春学期）

- 学外や海外において、社会の実在する課題に半年間（3年次春学期）集中して取り組む実践的な科目です



伝統絹緋再生プロジェクト訪問
(カンボジア)



食文化デザインプロジェクト



空家リノベーション・プロジェクト
(空家の有効利用)

- プロジェクト科目で実践的に学んだ経験により、ゼミナール、卒業研究を自発的に進められるようになり、アクティブな就職活動にもつながります。

共生デザイン学科で目指せる資格・免許と主な進路

目指せる資格・免許

- 二級建築士
- インテリアプランナー
- 商業施設士補
- インテリアコーディネーター
- カラーコーディネイター
- 福祉住環境コーディネーター
- ビオトープ管理士
- 環境カウンセラー
- 司書 など

主な進路

- インテリア設計・販売会社
- 建築・設計会社
- 住宅・不動産会社
- メーカー・サービス会社の企画部門・マーケティング部門
- 広告・デザイン会社
- 市場調査会社
- エコビジネス関連会社・組織
- 公務員・団体職員 など



ゼミナール紹介

淡野ゼミ

人間共生学部
共生デザイン学科

「考える」を表現する。表現することで各々の“気づき”をうながします。



教員紹介 淡野 哲（あわの・てつ）

【職業】 美術家・デザイナー・教育者・研究制作者
 【職歴】 CM制作・広告業務（フリーランス）、
 商品開発・企画（デザインユニット代表）、法政大学兼任講師、現職
 【学歴】 東京芸術大学デザイン科卒業、
 同大学大学院修士課程、博士課程修了：博士（美術）
 【専門】 プロダクト・グラフィックデザイン、立体造形
 【担当科目】 「基礎デザイン演習」「デザイン表現論」「グラフィックデザイン演習」
 「プロダクトデザイン演習Ⅰ・Ⅱ」「ゼミナールⅠ～Ⅳ」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」



淡野ゼミの紹介

まだ将来のビジョンが確定していない学生さんには“考える”ことで悩むよりも体験から“気づく”ことで本当にやりたいことが見つけれられる課題学習を実践します。春学期は3・4年生合同ゼミとしてグループワークを実施、協力して問題解決や企画制作を体験します。秋学期はその体験を活かし、3年生は個別課題に取り組み、4年生は卒業制作を中心に各々の集大成を表現します。



卒業研究・制作について

作品制作を基本としますが「モノをつくる」といったことのみならず、例えば、身体表現や音楽（音声）料理・菓子製作等といったカタチとして残り続けたいようなものも含め、あらゆる表現制作が可能です。但し、なぜそれを表現するのか、そのことを説明できる様、ゼミにおいて探求した上で具現化させます。

- 表現の考え方 -

【デザイン】 問題解決 【アート】 問題提起 として様々な表現を具現化。

その他、広告媒体（グラフィック、映像）、商品企画（雑貨、製品、商品企画）立体造形（オブジェ）、平面表現（絵画表現、イラスト、雑誌編集）映像表現（アニメーション、写真集）、他・多様な表現



関東学院大学





ゼミナール紹介

海老根ゼミ

人間共生学部
共生デザイン学科

海老根 秀之（えびね ひでゆき）



映像による表現もデザインの一つの領域です。制作方法を修得して映像でメッセージを伝えましょう！

海老根ゼミでは、様々なイベントや、活動をPRするプロモーションビデオの制作を行っています。



ゼミ室には、3D対応4Kプロジェクター、120インチスクリーン、Dolby Atmos対応5.1.2chサラウンドシステム、DVD、Blu-rayソフト、3Dプリンタなどが揃ってます。

海老根ゼミの紹介

ゼミナールIとゼミナールIIでは、様々な映像作品を製作者という視点で主体的に鑑賞し、どのような表現手法や工夫が盛り込まれているかを研究していきます。ゼミナールIIIとゼミナールIVでは、修得した表現手法を活かしてプロモーションビデオの制作などを行っています。



プロモーションビデオ制作

海老根ゼミにプロモーションビデオ制作の依頼がくることがあります。ゼミのメンバーで、プロモーションビデオの構成や演出を考え、撮影、編集しています。制作スキルの向上が図れるので、積極的に協力しています。

想定される卒業研究テーマ例

新たな映像表現手法の開発



ありきたりな映像表現ではなく、これまで見たことがないような、新たな表現手法を研究します。

社会連携



本学の社会連携センターを経由して、企業から映像制作などの協力依頼がくることがあります。貴重な経験を積むことができます。

3Dプリンタの活用



3D CADでオリジナルのアクセサリなどをデザインして3Dプリンタで出力できます。



ゼミナール紹介

兼子ゼミ

人間共生学部
共生デザイン学科

兼子 朋也（かねこ ともや）

専門は、建築・都市環境デザイン。
気候風土に適応し、環境負荷の少ない、
豊かで真に健康で快適な暮らし・建築・
まちをデザインすることを目指していま
す。

近年は、空き家の再生・活用、アートと
まちづくりなど、コミュニティの持続的
発展に寄与するプロジェクトにも取り組
んでいます。



兼子ゼミの紹介



空き家のリノベーションプロジェクト



コミュニティ活性化プロジェクト



温熱環境と健康・快適性

【キーワード】

エコデザイン サステイナブルデザイン
風土建築 環境共生建築 パッシブデザイン
都市気候 ヒートアイランド
温熱環境 快適性 住まい方
アートプロジェクト アートマネジメント
コミュニティデザイン 空き家再生 自転車・・・



アート展示の企画・実践

卒業研究テーマ例

① 鎌倉の風の道に関する研究



調査に基づき、鎌倉のヒートアイランドを涼しい海風を活用して緩和する提案を行います

② 風土建築の調査研究



気候風土に対応した建築および生活を調査します（写真は島根県東出雲の柿小屋の事例）

③ アートプロジェクトの調査研究



アートイベントが地域に果たす役割を検討します



関東学院大学



ゼミナール紹介

小林ゼミ

人間共生学部
共生デザイン学科

小林 和彦（こばやし かずひこ）

専門は映像制作です。3DCGの他、写真や映像の合成、加工を利用した表現についての研究を行っています。作曲も行っていて、映像作品のBGMも制作しています。最近はゲーム開発ツールを使用した、音と映像を組み合わせた表現の可能性を探求しています。



花火の写真を合成した作品「朱ノ交」

小林ゼミの紹介

コンピュータグラフィックス、写真、アニメーションなど、コンピュータやデジタル機器を使用した作品制作を主に行っています。最近では、開発環境が整ってきたこともあって、ゲーム制作も増えています。



HDR合成を用いた写真の絵画調表現



Windows用ゲーム「Escape」



3DCGによるフォトリアル表現



被写体に躍動感を付加する写真撮影



自作漫画のコマーシャル

卒業研究テーマ例

① 魚眼レンズを用いた夜景の表現



概要:高層ビルの展望フロアから、魚眼レンズ（非常に広い範囲を広角で撮影出来るレンズ）を使用して写真を撮影します。魚眼レンズ特有の水平線の歪みによって、地球の丸みをイメージできるような作品です。さらに写真の明るさや色を調整する「現像」という作業により、街の光を強調しています。

② デジタルイラストと3DCGの合成



概要:キャラクターのイラストに、3DCGで制作したギターを合成しています。イラストはシンプルな線で描き、3DCGはリアルにして、キャラクターとギターの見た目にギャップを出しつつも、全体では自然に見えるようにギターの大きさや位置、角度を調整しています。



ゼミナール紹介

佐々ゼミ

人間共生学部
共生デザイン学科

佐々 牧雄（ささ まきお）



専門はデザイン・マネジメント、デザイン・プロデュース、サービスデザインです。人（デザイナー）・モノ（設備など）・金・情報（マーケティング情報など）をどのように配分したら、デザインを理想に導けるか研究しています。また、目に見えるデザインだけではなく、サービスデザイン（コトのデザイン）も研究しています。

関東学院に赴任前は、パソコンの原形を発明したことで知られる米国ゼロックスの研究所（パロアルト研究所）に勤務していました。研究所では、世の中を驚かせるような革新的な製品（モノ）やサービス（コト）を生み出すため日々研究をしていました。

見かけによらず親近感を感じてもらえると思います。

佐々ゼミの紹介

ゼミでは、研究対象とするモノやサービスを決定し、そのモノ・サービスに対するデザイン・プロデュース（デザインを理想の方向に導くこと）を学びます。教員が民間企業時代に構築した人脈を活用して様々な企業や地域とのコラボレーションを行います。写真は、淡野ゼミとの共同で行った「久里浜商店街活性化プロジェクト」（黒船プロジェクト）の様子です。



制作したパンフレットのコンテスト



パンフレット制作のための店舗への取材

卒業研究テーマ例

① テマパークにおける おもてなしのデザイン



概要: テマパークHの利用者は、休日と比べ平日が極端に少なくなる。このギャップを解消するため、来場者の観察調査を行う。平日も賑わうような「新しいおもてなし」のあり方を提案する。提案はコストをいくらかでもかけても良いわけではなく、収支が成り立たないとしない。

② オープンキャンパス・ツアーにQRコード導入提案



概要: オープンキャンパスの実施は、大学生のいない土曜や日曜が多く、来場者は平日の活気溢れるキャンパスの雰囲気を感じられないことを観察調査から把握した。会場内に導入したQRコードに来場者がスマートフォンやタブレットPCをかざすことで、平日の大学のありのままの姿を動画を通して体験してもらう。





ゼミナール紹介

定國ゼミ

人間共生学部
共生デザイン学科

定國 伸吾（さだくに しんご）



専門は、インタラクティブデザインです。インタラクティブは、何かと何かの相互作用のことで、私は特に、人と情報やAIさらには環境との相互作用について、ICT技術を用いて、楽しくしたり、便利にしたりすることを考えています。

出身は香川県で、瀬戸内会を常に目にしながら育ちました。香川を離れてしばらく経ちますが、帰省するたびに「瀬戸内海って素晴らしい」と感じています。霞がかって島並、空と海の境界が溶けそうな色合い、日本では瀬戸内ならではと思います。ぜひ、行ってみてください！最近の趣味は、キャンプやSUPで、家族や友人とのんびりと楽しんでいます。

研究テーマ



「もじ・モジ・じっけん」の様子

風景からデザイン素材やグッズを生み出すことで、利用者にこれまではない付加価値をあたえることができるのでは？と考えています。

（例えば自分が生まれた日の空の色のTシャツがあったら嬉しそうなど）他には、モジ造形あそびをICTで拡張した「もじ・モジ・じっけん」ワークショップという活動もおこなっています。このワークショップは、その開催場所で素材を集め、それらの素材を使って、書体を作る活動が中心となる企画で、その企画やそれを支えるシステムを開発しています。

定國ゼミでできること

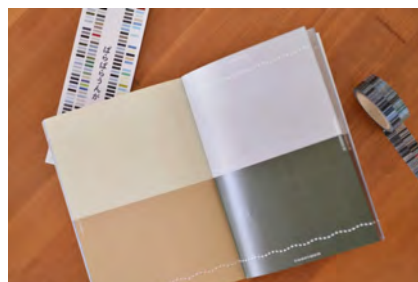
何でもできますが、人と「何か」の関係を面白くしたい、便利にしたい、考えさせたい、等という切り口で始めると面白いことがおきやすいかも？アイデアを出すための技法についても学びますので、アイデアを出すことが苦手でも大丈夫です。ゼミの有志で、こども向けのワークショップを企画実施したりもします。



かみひこうきぐも：紙飛行機を飛ばしてスクリーンに絵を描く遊び



まなえんぴつ：単語から色を作り、その色を身体を使って塗る遊び



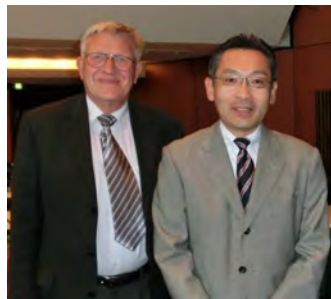


ゼミナール紹介

佐野ゼミ

人間共生学部
共生デザイン学科

佐野 慶一郎（さの けいいちろう）



V. E. スパーバ先生と佐野
（ドイツ カッセル大学）

専門は、①環境政策、②エコ・デザイン、③リサイクル、④材料表面処理です。環境負荷の少ない材料から製品生産プロセス、ゴミのリサイクルまでの全体を研究し、各研究が一体となった環境政策に関連する企業と自治体に提案し、実用化をしています。理念は、人と環境のためになる教育と研究です。大学院(修士)修了後、①自動車会社で

硬質薄膜とリサイクル技術を開発し、博士号を取得。その後、②公務員(山梨県)に転職、葡萄エキス消臭剤の研究でノーベル賞を受賞した大村智先生に師事。③静岡県立大学助教授となり、茶カテキン消臭剤の研究に従事。その後、④本学教授となり、近年、竹粉入りのプラスチックやドクダミやナノオゾン水洗浄による材料消臭に没頭中。多くの特許を出願、実用化しております。

佐野ゼミの紹介

佐野ゼミでは、皇太子殿下からの「環境研究の実用化に期待する」とのお言葉をもとに、学生への教育と研究を行っています。様々な共同研究(産官学)を通じて、ゼミ生は学術研究の基礎と応用、および社会や海外との連携を学んでいます。主な共同研究先は下記のとおりです。

皇太子殿下への
リサイクル研究
のご説明



<現在> 国立国際医療センター病院, ドイツTITK研究所, 米国サンフランシスコ州立大, トレド大, 京都工芸繊維大, いすゞ自動車, ユニオン産業, (株)グリーン, (株)エムアイシー, 産業技術総合研究所, 中国常州大(客員教授), 本学材料表面工学研究所員
<過去> 成田空港, 日清オイリオ, キッコーマン, 三井農林, 日産自動車, 倉敷紡績, 独カッセル大日本特殊塗料, 三信化工, 山梨県環境研究所(現富士山研究所), 神奈川県産業技術研究所工学院大学, 静岡大学, 山梨大学等々



海外研修
スイス
マッターホルン

現在の主な共同研究

① 医療ゴミのリサイクル研究（国立病院との研究）



ゼミ生による医療ゴミの調査

概要: 病院では、医療技術の進歩を第一に考え、これまで医療ゴミの削減に注目していませんでした。ゼミ生は、医師と看護師と一緒に病院内で①リサイクル可能な非感染ゴミを選び出して、回収した廃棄プラスチックを用いて、②本学でリサイクル実験を行い、③実証研究（リサイクル品の試作と性能評価）と商品化（学内でリサイクルコップを販売）を行っています。

② 車部品の消臭化研究（ドイツTITK研究所との研究）



毎年、ドイツでの滞在研究を実施

概要: ドイツと日本は環境システムの先進国です。ドイツで開発されたバイオ材料は安価で高機能ですが、独特な臭いがあり困っています。ゼミでは、ドイツの研究所と共同で葡萄エキスの添加やナノオゾン水洗浄によるバイオ材料の消臭方法を研究しています。毎年、佐野は、ドイツの研究所で共同実験を行い、多くの学生も研修に参加しています。プロジェクト科目でも海外交流について深く学びます。





ゼミナール紹介

神野ゼミ

人間共生学部
共生デザイン学科

神野 由紀（じんの ゆき）



専門は、近代日本のデザイン史、文化史です。モノとそのデザインをめぐる様々な現象について、私たちは歴史的にどのように接してきたのか、というようなことを研究しています。私たちの日常生活は、多くのデザインに取り囲まれています。

有名デザイナーのモノだけでなく、ごくありふれた日用品も含め、デザインは私たちの時代背景を映し出す鏡といえます。カワイイもの、無意味なものなど、あらゆるデザイン表象が私の研究テーマです。



神野ゼミの紹介

ゼミでは、私たちの身近なデザインを考えるため、モノのデザインの外観にとどまらない、デザインを生んだ社会背景、人々の意識などを理解していきます。ゼミでは全学年合同で取り組む課題もあります。最近では、日本の新しいクラフトデザインについてや、インテリアデザインの流行とその背景についてなどの研究を進めています。



キリバコ（上）と鳴子こけしライト（下）
デザイナーによる伝統工芸品。ゼミで販売
ショップのプレスリリースを作成した。



ルームクリップ（株）との連携で、近年のインテ
リアの流行を研究。「男前インテリア」（左）と
「韓国風インテリア」（右）の投稿写真。

卒業研究テーマ例

① 文具における機能と反機能



親子ハサミ



三菱鉛筆 UNI
STAR

概要: 今日、優れた機能の文具が開発されている一方、ファンシー文具、ナンセンス文具も根強く支持されている。機能と反機能の役割は非常に曖昧である。日用品の中でも特に機能が明確な文具、中でもナンセンスは反-機能的文具に焦点をあて、デザインに求められる役割を再検討した。

② 紙の書籍をめぐる現状と考察



雑誌「ブルータス」の本屋さん
特集



こたつのある本屋

概要: 書籍のネット販売や電子書籍が広まる中、「町の本屋さん」は減少している。しかしその中で、大手とは異なる町の小さな書店が、独自のコンセプトをもつブックカフェをはじめ、新たな本屋の可能性で人々を惹き付けている。単に本を買うだけでなく、地域のコミュニティの場をつくり出そうとしている書店の現状を考察した。



関東学院大学



ゼミナール紹介

鈴木ゼミ

人間共生学部
共生デザイン学科

鈴木 彩希 (すずき さき)



専門は、近代日本ファッション史、ファッションスタディーズです。ファッションスタディーズとは、衣服、それをつくり着用する主体である人間、そして社会との関係性を読み解くための学術領域です。ファッションという対象はこれまで、大学や研究のなかでは軽視されてきました。なぜなら、ファッションとは刹那的で女性的、さらには軽薄だと考えられてきたからです。しかしながら、人間が社会生活を送る以上、私たちはみな、ファッションから逃れることはできません。「おしゃれを楽しむ」だけではないファッションの面白さを一緒に探求してみましょう。
ちなみにプロフィールの写真は、KOTOHA YOKOZAWAの卒業制作作品(2014)を着用しています。

研究テーマ

主な研究テーマは、近代日本における着物の改良がどのようにして女性の身体観に影響を与えたのか、ということです。現代では皆が当たり前洋服を着ていますが、日本人は和服から洋服へと徐々に着替えてきました。実は、多くの人たちが洋服へと着替えたのは第二次世界大戦後のことです。

では、なぜ日本人は慣れ親しんだ和服を脱ぐことになったのでしょうか？着物の改良は、洋装化の過程で生まれたひとつの潮流です。洋服が流入した当時、洋服に慣れていない日本人のなかでどちらの服を着続けるのか議論が巻き起こりました。その議論に折り合いをつけるべく行われたのが着物の改良です。改良した着物を着用することで、女性たちは自分の身体に再び向き合います。すなわち、着物の改良は女性たちが動きやすい身体のある方を発見するきっかけとなったのです。



「化繊のキモノ」『美しいキモノ』第2集、婦人画報社、1954年、73頁。

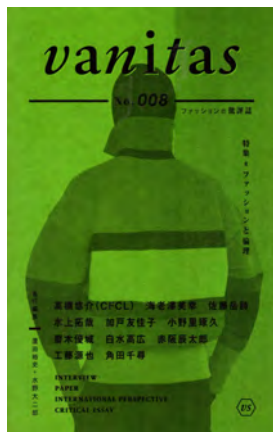
その他活動

鈴木ゼミでできること

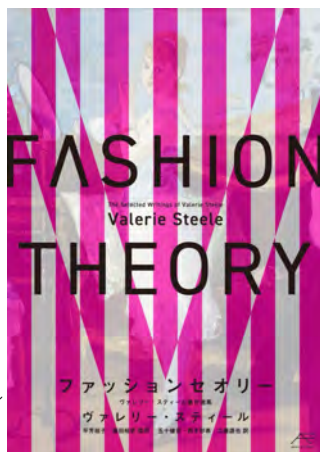
ファッション批評誌の編集

海外研究者の論文翻訳

ファッションスタディーズでは、メイクや刺青といった、ひろく身体や外見に関わることも研究されています。また、流行や消費といった事からもファッションスタディーズでは研究対象となります。「ファッション」と一口にいっても、「身体」「アイデンティティ」「倫理」など…どのような視点から切り込むかは自分の関心次第です。



『vanitas』No.009 (アダチプレス)



ゼミ全体の活動として、ファッション展の観覧も行います。

『ファッションセオリー：ヴァレリースティール著作選集』（アダチプレス）



関東学院大学



ゼミナール紹介

立山ゼミ

人間共生学部
共生デザイン学科

立山 徳子（たてやま のりこ）



専門は社会学です。特に都市生活や家族生活について、パーソナル・ネットワーク（おつきあい関係）の視点から研究しています。最近の研究発表には「リタイア後の夫婦の夫婦関係とパーソナル・ネットワーク」や「都市度別にみた子育てネットワーク」をテーマにしたものがあります。社会学は常識を疑い、新たな常識をデザインする学問です。その常識は誰のためのものなのかを考えます。

趣味はテニス、チェロ、旅行。

最近、着物で生活することを目指しています。

立山ゼミの紹介

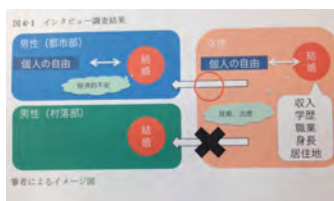
立山ゼミでは社会学の視点から、ヒト・モノ・コトのあり方にどのようなデザインが可能なのか考えてゆきます。今取り組んでいるテーマは、「若者の田舎暮らしというライフスタイル」です。



ゼミ合宿では、都会から移住し田舎の古民家カフェを経営する方にインタビューしました。

卒業研究テーマ例

① 現代の結婚事情



近代以前の家どうしの結婚と比べ、現代の結婚は男女個人を中心とした結婚に変容しています。

そのような中で結婚ビジネスの登場や結婚市場への階層格差、地域格差が誕生しつつあることを考察しました。

② 男らしさの変容



「弁当男子」や「スイーツ男子」、また「子育てをしない男性を父親と叫ばない」など、変わりつつある男性たちの生き方に焦点をあてました。インタビュー調査から従来の男らしさとは異なる生き方をする男性たちの内面を探りました。





ゼミナール紹介

二宮ゼミ

人間共生学部
共生デザイン学科

二宮 咲子（にのみや さきこ）

専門は環境学・多角的デザインです。
自然と共生する心豊かな暮らしと社会の望ましいあり方を探究しています。
社会連携教育プロジェクトを通じて、実践と教育と研究に一体的に取り組んでいます。



人間と自然の関係学

Ecology
地球がキャンパス

人間と人間の関係学

Sociology
地域がキャンパス

略 歴

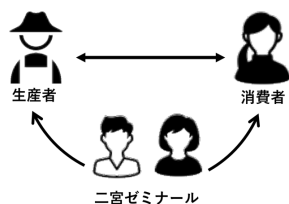
1970年代
東京都に生まれる
1980年代
千葉県で小中高校生活を送る
1990年代
東京都で大学生活を送る
企業の環境研究所に15年勤務
2000年代
東京大学大学院で研究生活を送る
2013年4月
関東学院大学に着任

二宮ゼミの紹介

二宮ゼミナールでは3・4年生が合同で2～3チームにわかれて、社会連携教育プロジェクトに取り組みます。
大学キャンパスが位置する神奈川県内の横浜・小田原・茅ヶ崎や、長野県泰阜村などをフィールドとして、自然環境の生態的・文化的価値と保全の望ましいあり方について実践的に学びます。住民・企業・行政・NPOなどの社会人の方々とも関わる機会が多いため、デザインのスキルだけでなく、実社会で必要なスキルも身につきます。

私たちの役割とは？

生産者と消費者の相互理解を促進する
交流の場のデザインプロデュースを担う。



卒業研究テーマ例

① 地域支援商品の企画プロデュース



定年退職後のシニアが耕作放棄地を再生して育てたみかんを商品化して「シン・和菓子」を企画プロデュース。売上の一部が耕作放棄地の再生活動の支援金になる地域支援商品であることを伝えるロゴマーク入りの紙帯パッケージと活動を広報するリーフレットも制作。2022年3月からは「みかん米粉どら焼き」の製造・販売が小田原の和菓子店で開始されています。



② 自然と共生する社会をつくるデザイン実践



行政だけではなく、地域住民が災害発生前も発生後も被害を減す行動をとる「減災」を研究。論文執筆に加えて「自分で考える」教育方式を採用した1泊2日の避難生活体験キャンプを企画し、県立公園で実施しました。

③ 自然環境や地域コミュニティを題材とした作品制作

- ・街をつくる人とつかう人をつなぐ映像作品「扇町へのラブレター」
- ・身近な自然の美しさを伝える写真集「包容」
- ・ソロキャンプマニュアル「さあ、行こう！ 日常の外へ」



関東学院大学



ゼミナール紹介

日高ゼミ

人間共生学部
共生デザイン学科

日高 仁（ひだか じん）



建築家として、インテリアからまちづくりまで幅広い空間デザインの実務を行っています。

ゼミでは空間デザインとともに、コミュニティのデザインについて研究します。空間デザインを行ううえで重要な、人のつながりや社会の仕組み、プロジェクトをいかに進めていくべきかななどのソフト面について、いくつかの地域と関わりながら実践的な研究を進めています。

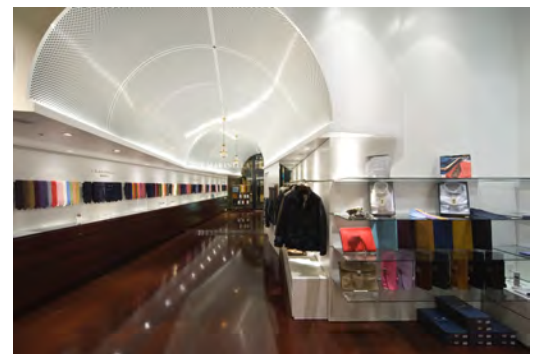
研究テーマ

「コミュニティDIY」

地域コミュニティのための拠点づくり・イベント等／空き家再生／建築・インテリアデザイン／まちづくり／コミュニティビジネス等による地域再生



Attire House 店舗（香港、セントラル）



Marinella Napoli 店舗（東京、丸の内）



左：Marinella Napoli 店舗（東京、六本木ミッドタウン） 右：南町テラス（逗子市）



瀬戸内の海の駅舎（愛媛県、弓削島）



空き家再生ゲストハウス（鹿児島、岸良）



E1号館 3階・4階マップ

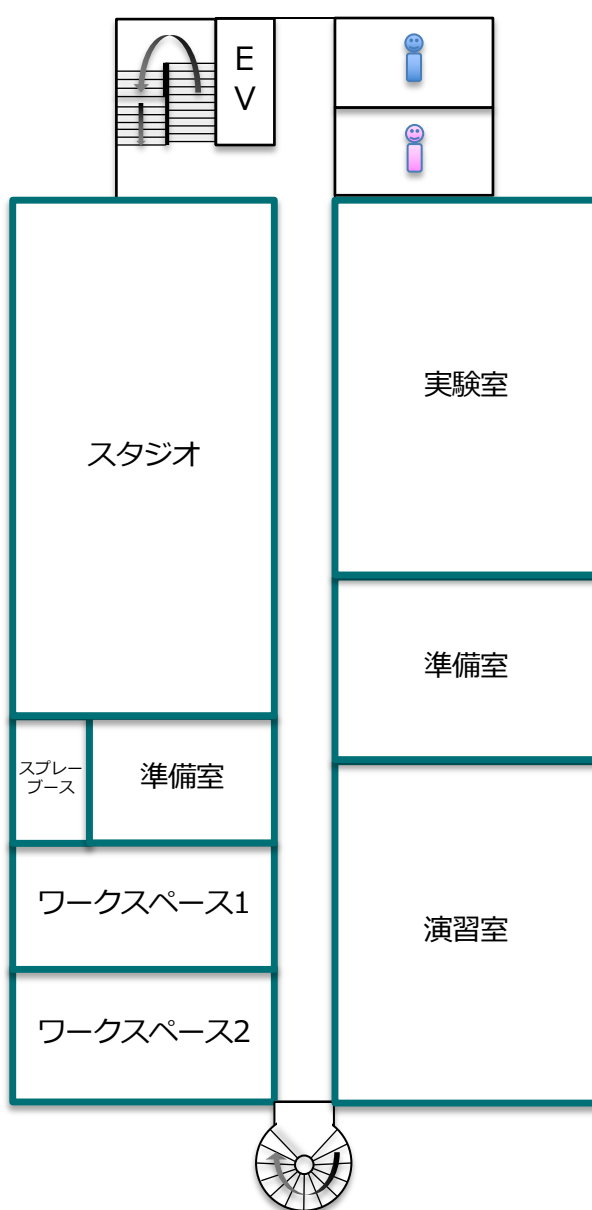
3階

E1号館3階には、共生デザイン学科のゼミ室が集まっています。
各ゼミの個性が表れたゼミ室になっています。



4階

E1号館4階には、共生デザイン学科の学生がよく利用するスタジオや、演習室、ワークスペース等があります。





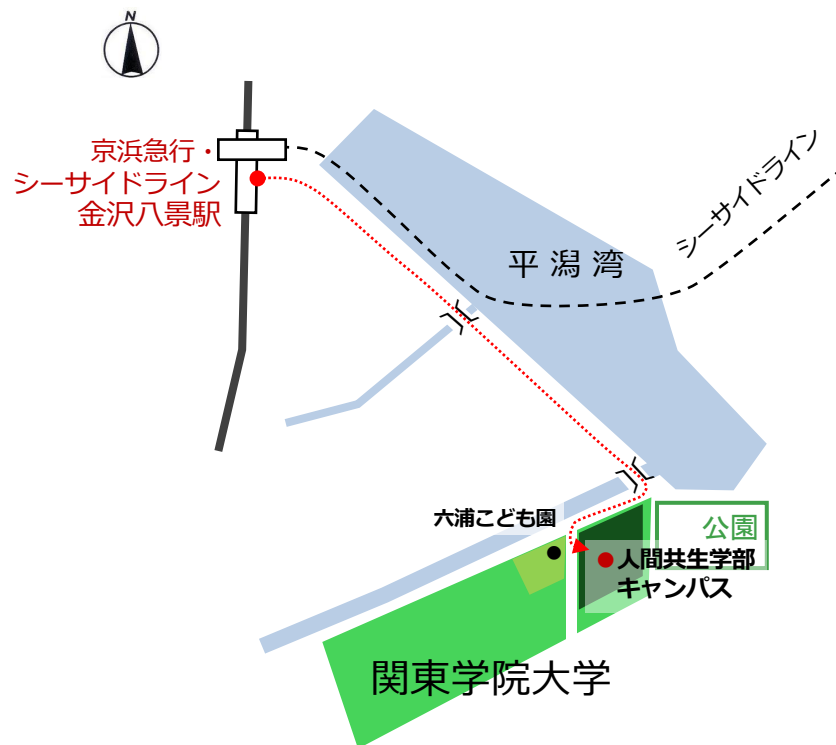
関東学院大学



関東学院大学のHPはこちら



人間共生学部のHPはこちら



お問い合わせ先：

関東学院大学 学部庶務課（人間共生、教育、栄養、看護学部）

TEL：045-786-7760

住所：〒236-8503 横浜市金沢区六浦東1-50-1

メール：ninshomu@kanto-gakuin.ac.jp

- ・ 人間共生学部の最寄り駅は、京浜急行の金沢八景駅で、快特で横浜から約20分、品川から約40分です。
- ・ 海の公園や八景島を通る横浜新都市交通金沢シーサイドラインも利用可能です。
- ・ 金沢八景駅からは京急バス「八8系統 関東学院循環」で約5分（関東学院東下車）です。